THE CASUAL VACANCY

カジュアル・ベイカンシー

突然の空席

I

J.K.ローリング

亀井よし子 訳

講談社
文庫

講談社文庫

カジュアル・ベイカンシー

突然の空席 I

J.K.ローリング｜亀井よし子 訳

講談社

|著者| J.K.ローリング　1997年から2007年にわたって出版された「ハリー・ポッター」シリーズ全7巻の著者。全世界74ヵ国語に翻訳され、200以上の国々で総計4億5000万冊以上を売り上げる。映画は8本制作されいずれも大ヒットを記録。児童文学への貢献により大英帝国勲章、オウスチュリア王子勲章、レジオンドヌール、アンデルセン賞など数々の受賞歴がある。また、恵まれない子どもたちのため多くのチャリティ団体を支援している。

|訳者| 亀井よし子　文芸翻訳家。翻訳学校での教鞭もとる。訳書に『いつもふたりで』、『口笛の聞こえる季節』、『リップスティック・ジャングル』、『ブリジット・ジョーンズの日記』、『魔女の血をひく娘』、『人類、月に立つ』、『ハロルド・フライの思いもよらない巡礼の旅』など、フィクション、ノンフィクションを問わず多数。

カジュアル・ベイカンシー　突然の空席 I

J.K.ローリング | 亀井よし子 訳
© Yoshiko Kamei 2014

講談社文庫
定価はカバーに
表示してあります

2014年2月14日第1刷発行

発行者——鈴木　哲
発行所——株式会社　講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112-8001
電話 出版部（03）5395-3510
　　販売部（03）5395-5817
　　業務部（03）5395-3615
Printed in Japan

デザイン—菊地信義
製版———凸版印刷株式会社
印刷———凸版印刷株式会社
製本———株式会社大進堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは講談社文庫出版部あてにお願いいたします。
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277771-1

カジュアル・ベイカンシー　突然の空席Ⅰ　目次

Part 1　7
(Olden Days)　97
Part 2　329

Ⅱ巻▼Part 3/Part 4/Part 5/Part 6/Part 7

講談社文庫

カジュアル・ベイカンシー

突然の空席 I

J.K.ローリング｜亀井よし子 訳

講談社

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

The Casual Vacancy
by J.K. Rowling
Copyright © 2012 by J.K. Rowling
First published in Great Britain in 2012 by Little, Brown
The moral right of the author has been asserted.
All rights reserved.
Japanese edition published by arrangement with the author
through The Blair Partnership

Jacket design by Mario J. Pulice
Jacket illustration and hand-lettering by Joel Holland

日本語版装丁　坂川栄治＋坂川朱音（坂川事務所）

"Umbrella": Written by Terius Nash, Christopher "Tricky" Stewart, Shawn Carter, and Thaddis Harrell ©2007 by 2082 Music Publishing (ASCAP)/Songs of Peer Ltd.(ASCAP)/March Ninth Music Publishing (ASCAP)/Carter Boys Music (ASCAP)/EMI Music Publishing Ltd.(PRS)/Sony/ATV Music Publishing (PRS). All rights on behalf of WB Music Corp. and 2082 Music Publishing administered by Warner/Chappell North America Ltd. All rights on behalf of March Ninth Music Publishing controlled and administered by Songs of Peer Ltd.(ASCAP). All rights on behalf of Carter Boys Music controlled and administered by EMI Music Publishing Ltd. All rights on behalf of Thaddis Harrell controlled and administered by Sony/ATV Music Publishing. All rights reserved. Used by permission. International copyrights secured. Rights for Japan administered by Peer Music K.K. Permission granted by EMI Music Publishing Japan Ltd. Authorized for sale only in Japan. Print rights for Japan administered by Yamaha Music Publishing, Inc. The rights for Japan licensed to Sony Music Publishing (Japan) Inc.

カジュアル・ベイカンシー　突然の空席Ⅰ　目次

Part 1　7
(Olden Days)　97
Part 2　329
Ⅱ巻▼Part 3／Part 4／Part 5／Part 6／Part 7

Part One

カジュアル・ベイカンシー　突然の空席 I

ニールに

Part One

6.11 「偶発的な空席（カジュアル・ベイカンシー）」が生じたと見なされるのは

(a) 地方自治体ないし自治組織の議員が特定の期間内に議員職受諾宣言を怠った場合、あるいは

(b) 議員本人による辞職願いが受理された場合、あるいは

(c) 議員の死亡当日に……

チャールズ・アーノルド・ベイカー
「地方自治体・自治組織の運営」
第七版

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日曜日

バリー・フェアブラザーは食事に出かける気になれずにいた。この週末のあいだ、ほとんどずっと激しい頭痛に耐えながら、地元新聞に頼まれた原稿の締め切りに間に合わせようと苦闘してきたからだ。

とはいうものの、この日の昼食どき、妻のメアリーは少しばかり硬い表情をして、ろくに口を利いてくれなかった。結婚記念日のカードだけでは午前中いっぱい書斎にこもっていた罪を大目に見てはもらえないようだ。クリスタルのことを書いていたといってみても始まらない。そもそも、メアリーはクリスタルを嫌っている。そうでないふりはしているけれども。

「メアリー、きょうはきみをどうしても食事に連れ出したいんだよ」とバリーは嘘をついた。ふたりのあいだに張った氷を解かすためだった。「十九年だぞ、子どもたち！もう十九年もたったのに、きみたちのママはますますきれいだ」

メアリーの表情が和らぎ、笑みが浮かんだ。そこで、バリーはゴルフクラブに電話を入れた。そこならば家から近いし、必ず席を確保できるからだ。バリーはささやかなことで妻を喜ばせようと努めていた。結婚後二十年近くにしてようやく、大げさなことをしようとして何度となく妻を落胆させてきたことに気づいたからだ。意図してそうしてきたわけでは断じてない。彼と妻とでは人生で重要視すべきものごとについての考え方が違うのだ。

バリーとメアリーの四人の子どもたちは、すでにベビーシッターを必要とする年齢を過ぎている。バリーが彼らに向かって最後に、行ってくるよ、と声をかけたとき、子どもたちはテレビを見ていて、末っ子のデクランだけが振り向いて片手を上げた。行ってらっしゃい、の合図だ。

バリーの頭痛は依然としてつづいていた。耳のうしろが疼くのを感じながら、ドライブウェイから車をバックで出すと、パグフォードのこぎれいな町へと走り出した。ここは彼ら夫婦が結婚して以来ずっと住みつづけてきた町だ。車は教会通りの急坂にさしかかった。ヴィクトリア朝様式の豪奢で堅牢な住宅の並ぶ、町いちばんの高級住宅地だ。車はやがて偽ゴシック様式の教会の角を曲がった。かつてバリーはその教会で、双子の娘が演じるミュージカル《ヨセフ・アンド・ザ・アメージング・ドリームコート》を観たことがある。車はさらに広場を横切った。そこから、いまは廃墟と

化した修道院の残骸がくっきりと浮かび上がって見える。丘の頂に、町のスカイラインを威圧して立つ黒々としたその骸が、いましもすみれ色の空に溶けこもうとしている。

なじんだ通りを車で行くバリーの頭には、ほんの少し前に〈ヤーヴィル・アンド・ディストリクト・ガゼット〉紙にメール送信したばかりの原稿のことがこびりついていた。大急ぎで書き上げたのがたたって、いくつかミスをした気がしてならない。元来がおしゃべりで愛嬌たっぷりのバリーだが、自分のそんな人柄を原稿に反映させることのむずかしさを思い知らされていた。

ゴルフクラブは広場からほんの四分、パグフォードの家並みがまばらになり、いまにも崩れ落ちそうな古い田舎家がわずかに残る界隈の少し先にあった。バリーはクラブレストラン〈バーディー〉の前で車を停めると、しばらく車の脇に立ったままメアリーが口紅を直すのを待っていた。ひんやりとした夜の空気が顔に心地よい。ゴルフコースの輪郭がぼやけて薄闇に溶けこもうとする様子を見つめながら、なぜここの会員権をいつまでも持ちつづけているのだろう、と考えた。そもそも彼はゴルフが得意ではない。スウィングはめちゃくちゃだし、ハンディも多い。空き時間にもすべきことは山ほどある。頭の疼きはかつてないほどひどくなっていた。

メアリーが車内灯を消して助手席側のドアを閉めた。バリーは手にしたキーのオー

トロックボタンを押した。メアリーのハイヒールがこつこつと舗装を叩く音がして、車のロックシステムが電子音をあげた。何か食べればこの吐き気はおさまるだろうか、とバリーは思った。

そのとき、頭にかつて経験したことのない痛みが走った。ビル解体用の鉄球がぶつかってきたような痛みだ。冷たい舗装に膝が崩れ落ちたときの痛みにもほとんど気づかなかった。頭蓋内に炎と血があふれた。この苦痛は忍耐の限度を超えている。だが、耐えねばならなかった。忘却が訪れるのはまだ一分ほど先だったから。

メアリーが悲鳴をあげた――あげつづけた。数人の男がバーから飛び出してきた。そのなかのひとりがあわてて建物内にとって返すと、誰か医者はいないかと確かめた。バリーとメアリーの知人夫婦がレストランで騒ぎを聞きつけ、前菜を放り出して自分たちにできることはないかと駆けつけた。夫が携帯電話で９９９番に通報した。

救急車は隣市（となりまち）のヤーヴィルから来ることになっていて、到着までに二十五分かかった。青色回転灯が現場に滑りこむころには、バリーはみずからの吐瀉物（としゃぶつ）にまみれて倒れたまま微動だにせず、周囲の働きかけにも反応しなくなっていた。メアリーはそんな彼のかたわらにうずくまり、夫の手を握りしめてむせび泣きながら、小さな声で名を呼びつづけていた。タイツの膝が裂けていた。

月曜日

I

「気をたしかに聞いてほしいんだ」チャーチ・ロウの広大な屋敷のキッチンに立って、マイルズ・モリソンはいった。

朝の六時半まで待って電話をしたのだ。それにしても、ひどい夜だった。眠れぬ時間がえんえんと過ぎて、その合間合間にごく短く不安な眠りが訪れただけだった。午前四時、マイルズは妻もやはり眠れずにいることに気がついた。だから、しばらくのあいだ、闇の中でひそひそと話し合った。思いがけず目撃するはめになったできごとを話し合い、ぼんやりとした戦慄と衝撃を追い払おうとした。だが、そうするうちにもすでに、父に一部始終を報告するときのことを思って、内臓が軽く小さな興奮のさざ波に洗われるのを意識していた。せめて七時まで待とうと思っていた。なのに、誰

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com